

宗教者共同声明発表集会
取材の自由を守ろう！
市民の「知る権利」の侵害を許しません
2019. 3. 28
東京新聞 望月衣塑子

記者クラブへの貼りだし

▶ 私や他の記者への精神的な圧力、質問の委縮

政府の言う「事実」を「事実」としたいのか

表現の自由にまで矛先
「主観に基づき、客観的・中立性に欠く」など

会見は、政府のためでなくメディアのためでなく
国民の知る権利のために

官邸報道室の貼りだし

事実に基づかない質問
謹んでと要望してきた

会見の意義損なわれる
内外の幅広い層に
誤った事実認識を拡散
度重なる問題行為

問題行為について
問題意識の共有をお願い

権力に利用されていないか

- ・ 読売 5月3日一面「加憲」
- ・ 前川前次官の出会い系バー報道
- ・ 釜山総領事の森本康敬氏
→記者メモで更迭
- ・ メディアトップと安倍首相との会食

平成 30年 12月 28日
内閣記者会 御中
内閣官邸 総務大臣官邸報道室長 上村 秀紀
12月26日午前の官邸長官記者会見における東京新聞の特定の記者による質問について、添付資料にお示しするおりの事実認識等がありました。
当該記者については、東京新聞側に対し、これまでも異次におたり、憲法に基づかない質問は厳に慎んでいただくようお願いしてきました。これに対し、同社からは、事実に基づく的確な質問を心掛けるよう同記者を指導していく旨の回答を繰り返してまいりましたが、にもかかわらず、再び事実に対する質問が行われたことは極めて遺憾です。
改めて指摘するまでもなく、官邸長官記者会見は、官邸ホームページ上のインターネット動画配信のみならず、他のメディアを通じてライブ配信等も行われており、そこでのやりとりは、官邸長官の発言のみならず、記者の質問も、国内外で直ちに閲覧可能になります。そのような場で、正確でない質問に起因するやりとりが行われる場合、内外の幅広い層の視聴者に誤った事実認識を拡散させることになりかねず、その結果、官邸長官記者会見の意義が損なわれることを懸念いたします。
このような観点から、東京新聞の当該記者による度重なる問題行為については、総務大臣官邸・内閣広報室として深刻なものとして捉えており、貴記者会に対して、このような問題意識の共有をお願い申し上げますとともに、問題意識を共有していただく次第です。
もとより、本件申入れは、官邸長官記者会見における記者の質問の権利に

メディアの役割とは

権力の監視、チェック

「報道の自由度ランキング」日本67位
最高は12位（鳩山由紀夫政権）

「ジャーナリズムとは 報じられたくないことを報じることだ。それ以外のものは 広報にすぎない」 (ジョージ・オーウェル)

なぜ追及できないのか

- ・ 記者クラブ制度の弊害
- ・ 日本独特の男社会の忖度?!
「日本人にジャーナリズム向いてない」
- ・ 一時期は上村報道室長が
「いま手を挙げている方、お一人一問で
御願います」
菅氏の顔色みつつ、幹事に合わせて
「終わります！」

日本の記者クラブはどう見える？

日本の記者クラブの報道は、アクセスジャーナリズムに他ならず、権力者から一步引いて、権力者と違うファクトを出す「調査報道」とは異なる。役人たちに依存し、プレスリリースなど情報を貰えなくなるため、怒らせることを避け



記者クラブ制度のもとでは、政府が描くストーリーを発信しがち、政府は厳しい調査報道をする能力に影響が出る



NYTアジア支局長
マーティン・ファクラー氏

国連人権理事会
特別報告者 デビット・ケル氏

五感を信じて人々のために

- ・ 五感をフルに使って
- ・ 権力と対峙する位置にいるか
- ・ 疑問や疑念が **自分の内側** で解消できたか
- ・ 世界・日本の人々にとってベストか
- ・ 自分や「お友達がいい」でなく力の弱い声なき人たちが幸せになれるか